

1 単元名

「地震からくらしを守る」

2 単元目標

(1) 過去に発生した自然災害に対して、地域の関係機関や人々は様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対して、様々な備えをしていることを理解することができるようにする。また地図や年表などの資料をもとに、日本の災害についてまとめることができる。

【知識・技能】

(2) 過去に発生した地域の自然災害や関係機関などの協力などに着目して災害から人々を守る活動の動きを考え、考えたことや理解したことを表現できるようにする。【思考・判断・表現】

(3) 主体的に問題解決しようとする態度や災害などの時に共助の考えを理解し地域社会の一員としての自覚を養うようにする。【主体的に学習に取り組む態度】

3 目標項目との関連

ステージ6（教科学習）

c 「相手や場面・目的に応じて、効果的な表現方法を用いて話す」

4 児童生徒の実態について

4学年は男子3名、女子2名の計5名である。小学部の他の学年に比べて非常に少人数である。国際結婚家庭の児童が2名であり、全ての児童に日本語力に大きな課題は見られない。ただ、全体的に漢字の読み書き苦手な児童が多く、学校生活を通して語彙の知識が乏しさを感じることがある。

自分の意見をしっかり持ち、主張することを得意とする児童が多い。反面、それぞれ自身の考えに頼り過ぎる傾向があり、根拠がないため説得力に欠けるという課題が見られる。

さらに、授業の中では、普段と変わらない話し言葉で発表する児童がほとんどであり、その場に合った適切な言葉づかいを使うことも、本学級の課題である。

国際結婚家庭の児童や中国での生活が長い児童もいるが、中国・大連の状況や社会基盤を十分理解している児童は少ないと感じている。したがって、大連に住んでいることを生かし、身近な題材をできる限り活用して、中国の文化・生活などの理解を深めさせたいと考えている。

5 単元について

本単元は学習指導要領に新たに位置づけられた「自然災害」について、豊かで深い授業展開をすることができるものである。地震、津波、台風、大雨、火山災害など様々な災害が、日本ではいつどこで起こっても不思議ではない。今年の梅雨時期、8月には日本各地で大雨による被害が連日のようにニュースに上がっており、減災に向け市町村をはじめとした政府の取り組みや、「自助・共助・公助」の視点から自分や家族、地域の人々の命や生活を災害から守る取り組みについて理解させたい。そして、児童が生活する遼寧省でも大雨による浸水害や地震によ

る被害が出る可能性が考えられ、児童にとって身近な課題を扱うことのできる单元である。

本单元の中で、学習した災害に対する知識や情報をもとに、学校で災害が起きたことを想定し、実現可能な防災への取り組みを考えさせたい。また、児童の話し合いを通して、具体策を提案させたいと考える。中国・大連の状況と災害に対する備えを自分のこととして捉える姿勢を育てたい。

最後に、「災害」という視点から日本と中国を比較することを通して、児童が身近な生活環境の違いや両国の自然環境に基づいた文化の違いに気づくきっかけにしたいと考えている。

6 日本語支援について

本学級の児童の実態をふまえ、日本語支援として以下の三つの手立てを準備した。

一つ目は、モデル文の活用である。中国と大連で起こりうる災害を調べ、「中国（大連）では〇〇の災害が起こる可能性があります。その災害によって△△のような被害を受けます。」というモデル文に沿って発表を行う。また、災害時に必要な物「災害時に必要な物は〇〇です。なぜなら□□□□だからです。」というモデル文を活用して発表を行う。モデル文を活用することにより、説明に必要な事項を捉えることに加えて、適切な言葉づかいを身につけるきっかけになると考えている。

二つ目は、動画や画像による視覚的アプローチである。調べ学習では、タブレットを活用して災害に関する動画や画像を見せる。そのことにより、災害やその被害について、児童は具体的なイメージや実感を持って語彙を理解することができると考えている。

三つ目は、タブレット（ロイロノート）を活用した発表交流である。ロイロノートを活用することによって、それぞれの児童が発表時に動画や画像などの資料を容易に提示でき、発表内容をグループ内で共有しやすくすることができる。また、それぞれに対する発表への感想・意見を容易に提示・共有できるため、効果的な交流をスムーズに行うことが期待できる。

7 単元構成（総時数3時間）

時数	【学習活動】	【ポイント】
		○表現支援の視点 ◆バイカルチュラルの視点
第1時	「私たちが生活している地域の災害」 ●中国や大連で起こる災害について、種類別に調べ学習を行い、発表する。 ●ロイロノートを使い、交流をする。 ●日本の災害について紹介し、調べたことと比較する。	○モデル文（「中国（大連）では〇〇の災害が起こる可能性があります。その災害によって△△のような被害を受けます。」）をベースに発表をさせる。 ○動画や画像などの視覚的情報を共有することで、災害に関する語彙について実感・具体的なイメージを持たせる。 ◆近年起こった日本と中国の災害について、それぞれを比較させる。

第2時	「災害から生活を守るためにそなえなければならないもの」 ●学習内容をもとに学校にどのような用品・備蓄品があればよいか考え提案内容をまとめる。(グループ活動) ●グループごとに発表を行う。	◆大連での生活の経験を生かし、状況や環境を考慮して、必要な用品・備蓄品について考えさせる。 ○モデル文「災害時に必要な物は○○です。なぜなら□□□□だからです。」を活用し、必要な備蓄品について適切に発表させる。
第3時	「地域で災害からくらしを守る取り組みをまとめる」 ●クラスで話し合ったことをもとに、クラスから学校への提案書を作る。	○前時で学習したモデル文をベースにして、適切な言葉づかいで提案書を書かせ、学びの定着を図る。

8 資料



グループ間の情報交換



身近な災害を勉強して。 (大連日本人学校で必要と思うびちく品)

校長 先生へ

ぼくたちは、社会の勉強で、災害のことを勉強しました。水害のことでは、川などがあふれて、道がとおれなくなったり、家にかえれなくなったりします。土砂災害のことでは、建物が壊れたり、家がへんけいして、あられなくなります。その勉強した中で、学校で災害がおこったときに必要と思うびちく品について話し合いました。

まず1番必要な物は食料です。理由は、最低3日分の食料がないと、いけないと、学んだからです。あと、いづれ帰れるかわからなからです。

2番目は、かい中電灯です。理由は、土砂災害があった

身近な災害を勉強して。 (大連日本人学校で必要と思うびちく品)

ら、ていでんしてしまい、暗いときにまわりが見えなくなると、けんたからです。

3番目は、電池です。理由は、中電灯やラジオなどが、電気がなくなってしまうから

もしものときに、必要になると思うので、用意してくれたらうれしいです。よろしくおねがいします。

9 考察

【成果】

○モデル文を活用することにより、説明に必要な事項と適切な言葉づかいへの理解を深め、発表に生かす様子が見られた。特に、敬語の難しさを実感しつつ、発表時に意識して使おうとする姿勢が見られた。

○本来、発表の技能と意欲が高い集団である。根拠を明確にして発表内容をまとめることで、非常に質の高い発表活動につなげることができた。

○動画や画像などの視覚的情報の共有を通して、災害に関する語彙について実感・具体的なイメージを伴って理解させることができ、言葉を広げる活動にすることができた。例えば、多くの児童は「地震」や「津波」を実際に見たことがなく、その恐ろしさを実感していた。また、近年大連でも多くなった「大雨」について、自身の経験と結び付けてイメージを深めていた。

◆「災害」という視点から、日本と中国の違いについて理解を深めることができた。例えば、建築物の違いについても、地震の大きさや頻度が関わっていることを知り、身近な生活と関連付けて理解を深めることができていた。

◆大連・中国の生活経験を振り返り、災害に必要な用品・備蓄品を考えることを通して、それぞれの児童が自身の身近な生活環境を客観的に見つめ直すことができた。また、避難訓練などの場面で、学んだことを自身の生活に生かそうとする姿勢が見られた。

【課題】

○災害に関わる語彙は非常に重要であるが、日常生活や他教科の中で生かせる場面は少ない。本単元での学びをきっかけにして、実感や具体的なイメージを持ちながら言葉を学ぶ姿勢を育て、さらに日常生活や他の教科に生かせる学習活動につなげていきたい。

○本単元を通して、児童たちの適切な言葉づかいへの意識を高めることはできたが、適切な敬体の言葉づかいにはまだまだ課題がある。さらに、日常的・横断的に指導を継続し、定着をめざしていく必要がある。

◆本単元では、適切に話す力に着目して指導を行い、大きな成果があった。ただ、それぞれの考えを深める質の高い交流活動を行うためには、人の話を聞く意識や技能も重要である。今後は、発表を受容的に聞き、その上で適切な主張ができる資質の育成も必要であると感じた。

【まとめ】

本学級の児童たちの課題である「発表時の適切な言葉づかい」について、大きな改善がみられた。まだ、技能としては十分ではなく定着もしていないが、言葉づかいに対する意識が変容した様子と児童が本来持っている学習意欲の高さから、今後の生活や学習の中で本単元の学びが生かされると考えられる。

また、本単元を通して、それぞれの児童が自分たちの住む大連・中国の生活を振り返り、日本との比較をして、それぞれの違いを捉えるきっかけにしていた。このことを通して、日中両国の特徴を捉え、両国それぞれの良さを比較していく学習へとつなげたい。

本単元で学んだことを通して、今後どのように日常生活や他教科への学びへとつなげていくか、横断性と継続性を模索していくことが課題であると考えている。